

繁藤月報

〒789-0583

高知県香美市土佐山田町平山1748

天理教繁藤大教会

TEL 0887-57-9207 / FAX 0887-57-9246

春季大祭は、穏やかなお天気の中、教祖が子供可愛い故に、二十五年の定命を締められ現身を隠された親心に思いをいたし、一手一つに陽気に勇んでつとめられました。コロナウイルスの変異株、オミクロンがあつという間に流行し、まん延防止処置が各地でとられたせいもあつてか、祭典が終わって、教祖殿に向かう途中、東回廊から中庭を見ると、参拝者は少なかつたように見受けられました。

創立百三十周年記念祭を迎える節目に、後継者に譲る事を決め、記念祭と七代会長就任奉告祭を、五月二十二日につとめさせて頂くことを、真柱様に御内諾頂き、活動方針、実働項目を心定め勤めさせて頂いております。五月二十二日に記念祭・奉告祭を勤めるに先立ち、今月二十六日、記念祭のお運び、続いて、後継者が任命のお運びをさせて頂く事になります。

再びコロナが蔓延し始め、人流抑制、人数制限が求められるようになり、ようばく信者の方々とお会いする機会が少なくなりますが、おたすけをする事

を止められた分けではありません。有難いことに、お願いづとめをさせて頂くことが出来ます。又、記念祭・奉告祭に参拝出来るだろうか、心配もされるところですが、記念祭・奉告祭に参拝させて頂いていただくという思いで、「朝夕に神様に手を合わせよう」「悩める人に耳を傾け寄り添う」「親孝行夫婦仲良く陽気ぐらし」この実働項目に添い、教祖にお喜び頂ける姿を思い浮かべ、私に出来ること、すべきことを実行させて頂いていただくことが大切だと思います。そして、記念祭・奉告祭当日ご様の状況であっても、それが親神様のご守護と受け止め、勤めさせて頂きたいと思っております。

創立百三十周年記念祭・七代会長就任報告祭を目標に努めさせて頂いておりましたが、これがゴールではありません。一月四日の年頭会で、真柱様から教祖百四十年祭をつとめる事を御発表頂きました。教祖百四十年祭に向けての助走と捉え、教祖ひながたの道を辿り、誠の人となるよう、身近な人々のことを心にかけて、思いやり、幸せ

になつてほしい、たすかつてもらいたいという熱意を持つて、たすけ一条の上に努めさせて頂きましょう。

尚、今月の月報の紙面が、私の最後の挨拶となります。振り返れば、平成元年二月二十六日に、任命のお運びをさせて頂き、今月二十六日で三十三年になります。親神様・教祖のご守護は申すまでもなく、初代先人達が尽くし運び、真実の種を蒔いて下されたお徳により、又、皆様方のお心、お力を頂いて、勤めさせて頂くことが出来ました。後継者夫婦、私共と同じく、お心お力添えを頂き、お育て頂きますようお願い致します。

会長を引いても一ようばくとして、皆さんと共に、たすけ一条に勤めさせて頂きます。長年ありがとうございます。寒さまだまだ続きますが、気を付けてお勤め下さい。

立教百八十五年一月一日

天理教繁藤大教会長

坂本照仁

創立百三十周年記念祭・七代会長就任奉告祭

令和四年五月二十二日執行

【神殿講話】

(二月) 田村 辰久

【修養科生並びにおさづけの理拝戴者講話】

(二月) 田村 久徳

【教会長神殿当番】

(二月) 細島・日之富・大豊田
(三月) 新立・児島郷・百生

【詰所教養掛】

(二月) 田村 聡 佐
(三月) 渡辺 国 源

【詰所事務掛】

(二月) 村上 由 高
(三月) 立花 孝 一

【ひのきしん】

○婦人会詰所ひのきしん
二月二十五日～二十六日(未定)

○本部食堂ひのきしん

三月十六日～三十一日 高杉分教会
七月一日～十五日 紋膽分教会

【初席者】 方城 竹下 環

【教会長資格検定講習】

藤 広 三井 啓 志(記載漏れ)
【教人登録】長濱町 中村 隆之
【をびや】二件

【帰参見込み調査報告提出のお願い】

先月二十日、年頭の集いにおいて各教会に帰参見込み調査報告を提出していただく旨発表されました。当日ご参加できなかった教会には今回の月報に「繁藤大教会創立百三十周年記念祭・七代会長就任奉告祭における参拝の受け入れ体制について」と併せて同封しておりますので、現状と調査報告の趣旨をご理解いただき、二月十九日までに大教会までご提出下さいますようお願い致します。

【よふぼく・信者情報の確認リスト提出のお願い】

年頭の集いにおいて各教会へ配布致しました確認リストは、転籍・転住・改姓などの変更等ございましたら、同封の「よふぼく・信者情報の現状確認についてお願い」をご参照の上修正いただき、三月二十日までに大教会までご提出下さいますようお願い致します。

【本部月次祭昇殿参拝について】

本部月次祭には、現在、各大教会に割り当てられた人数のみ昇殿参拝をさせて頂く事ができます。本年三月までの間、繁藤としての割り当ては各月二十名です。部内教会ごとに割り当てはいたしませんので、昇殿参拝を希望される方は大教会坂本久徳(携帯080-1392011817)までご連絡下さい。先着二十名とさせて頂きませんが、二十名を超える場合は、今までの状況を考慮して調整させて頂きます。

【婦人会】

○「天理教婦人会大百四回総会」
四月十九日・本部中庭での婦人会総会は、各支部の代表者のみの参加で開催されます。
○「立教百八十五年活動方針ポスター」
直属教会を通して各委員部に一枚ポスターを配布致します。

す。教会内にお貼り下さい。
○「ひながたを学ぶ③」

直属教会を通してファイルを配布致します。ご活用下さい。

【少年会】

一月二十七日、少年会本部では年頭幹部会が行われ、その席上西田委員長から活動方針の発表されました。別紙として同封していますのでご確認ください。

又、今回で第四十回目になります「おつとめまなび総会」を左記の日程でつとめさせて頂きます。各隊とも大勢ご参加下さいますよう、お世話取りの程よろしくお願い申し上げます。

記

日時 四月一日(金) 十時より

場所 大教会

参加御供 一人、五円

おつとめ役割

座りづとめ……………中学生でつとめる

よろづよ八首、一・二下り目……………

三・四下り目……………城下隊

五・六下り目……………西田川隊

七・八下り目……………垣生隊

九・十下り目……………種崎隊

十一・十二下り目……………直属・藤高・佐岡・高杉隊

【学生会】

来る三月に行われます「学生生徒修養会大学の部」は、今回、三月二日から六日までと、八日から十二日までの二回に分けて開催されます。対象は、大学・短期大学・大学院・専門学校・高等専門学校四年生以上に在学している方です。今月十五日までが申し込み期間となっております。

申し込みお問い合わせは、大教会(為田)まで。

しでの峠を辿って

vol. 8

エピソード⑧ 「浜田道久 三代会長」

初代会長 徳太郎の三男として出生

浜田登の養子として入籍(※)

繁藤大教会三代会長拝命

(この時、道久二十五歳、部内教会三十七ヶ所)

二代真柱様のお入り込みを戴く

昭和ふしんにつき、高知大教会献木探査員の

一員として探木開始

溝渕登志恵と結婚

高知大教会長様お入り込みのもと、向田移転地の地ならし始める

高知大教会准員拝命

高知大教会役員拝命

繁藤大教会と改称・分離(部内五十七ヶ所)

創立五十周年記念祭執行

朝づとめ中、教祖に参拝の直後出火、事務所、

御居間、客間等全焼する

「三大方針」を提唱する

移転建築落成奉告祭

創立六十周年記念祭執行

高知教区長拝命

「おやさとふしん方」ひのきしん部主任

坂本道照 四代会長拝命

S 30	S 28	同年	S 27	S 26	S 21	S 19	S 17	S 16	S 12	S 9	S 8	S 6	S 4	T 15	M 45	M 34
1	4	12	3	3	5	1	3	1	10	3	9	2	12	12	6	4
26		3	20	21	24	22	26	7	17	21	8	10	5	18	29	

S	S	S	S	S	S	S
54	46	43	41	40	38	31
・	・	・	・	・	・	・
7	10	12	8	4	1	12
/	/	/	/	/	/	/
6	26	26	1	18	26	4

本部准員に登用される
別席取次人拝命
修養科主任拝命
教祖八十年祭ふしん掛拝命
本部員に登用される
布教部次長拝命
おはこび掛拝命
祭事室神殿掛主任拝命
出直(享年七十七歳)

※1 登は初代会長徳太郎の次男であり、先に浜田家の養子に入っていた。登は道久を養子に迎えた後、高知部属の幡多分教会の柿谷家へ婿養子として入籍。

補筆

【三代会長時代の設立教会】

久枝村 (S24.14) 東枝光 (S4.228) 赤池 (S6.5.25)
金宮 (のちの南田川・S6.7.24) 種一 (S7.10.30)
高昭 (S8.2.28) ※2) 徳能 (S8.4.25) 若梅 (S8.4.28)
児島郷 (S8.4.28) 博喜 (S8.10.30) 関守 (S9.3.28)
湧別 (のちの紋湧・S9.11.15) 孕 (S10.12.16) 天神島 (S12.6.27)
小倉郷 (S12.3.31) 紋膽 (S12.5.15) 関彦 (S21.4.30)
百春 (S12.12.15) 城企救 (のちの繁南・S12.12.15)
浪吉 (S21.4.30) 六藤 (S21.9.27) 桂浜 (S21.10.30)
笹春 (のちの大豊田・S22.5.25) 関海 (S24.4.25)
細島 (S26.10.26) 田井 (S27.10.27) 長浜町 (S27.10.27)

※2 高昭分教会は台湾に設立された繁藤にとって初めての海外教会であった。



想

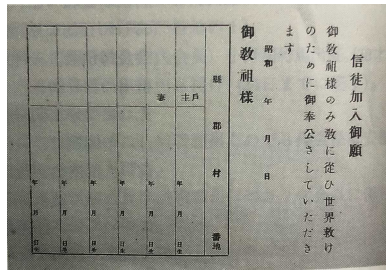
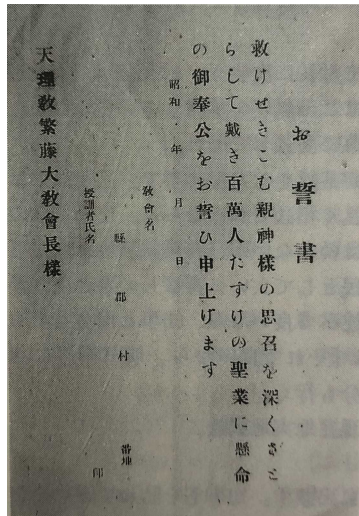
繁藤の道における浜田道久三代会長のご功績は、多大なるものでありました。若干二十五歳で会長を拝命し、教会の芯として務められたことはもちろん、御本部神殿の昭和ふしんの献木活動でのご尽力。また大教会への分離昇格や、繁藤の今の神殿ふしんをはじめとした「三大方針」の提唱・活動展開。そして会長を道照四代会長に譲った後の、御本部における様々なお役の歴任などがご功績として挙げられると思います。昭和ふしんの御用材献木の活動に関しては、繁藤大教会発刊の「年譜表と写真集」にある「昭和ふしん(第十二回天理教青年会求道者講習会でのお話・P369)」をお読みいただければ、当時のご苦心、真実尽くしたさまを感じていただけたと思います。ただ、献木活動において繁藤は当時、高知大教会のいち部内教会であり、言うまでもなく高知大教会の二代会長である島村國治郎先生をはじめとした、高知につながる先人先生方のご尽力・真実が集まれていることでもあります。そのことを考えると、道久三代会

長の歩まれた道中で大きな出来事を一つ挙げるとすれば、やはり「三大方針」の提唱・活動展開であると考えます。そこで、今回は、この「三大方針」について少し触れたいと思います。

「三大方針」は昭和二十一年に提唱されました。その三つの方針は以下の通りです。

- 一、百万人信徒結成
- 二、ようぼく養成（教師一万人、授訓者十万人）
- 三、大教会神殿建築

ここでいう、「信徒」とは、信徒加入御願とお誓書（※3 写真参照）をもって天理教に入信した者を指します。そして「教師」と「授訓者」というのは、今でいう「教人資格者」と「ようぼく」に当たると考えられます。



「三大方針」を掲げた前年、日本が大東亜戦争終結のまさにその日の朝、道久三代会長はある夢を見ます。それは、「従来の戦争方式は行き詰まった。これより天理教教義に基づく戦を開き始めよ。」との天の声であったといえます。まさにそれまで、御本部をはじめ繁藤においても戦争によって、信仰に大きく制限を与えられる日々が続いていたのであります。かぐら面の着用中止や、よろぎよ八首・三下り目・五下り目の省略（やまとの

ちば）「もとのかみ」「じつのかみ」などが対象）。繁藤においても、神殿建築の延期や移転案の頓挫、部内教会の戦争被害などがありました。そんな中、終戦後すぐに御本部では復元が打ち出され、翌年には教祖六十年祭が執行されました。それから間もない三月に提唱したのが「三大方針」です。終戦の混乱の中ではありませんが、大教会役員・部内教会会長はじめ、信者一同の胸に「さあこれから世界だすけへ」という熱が急激に高まっていたのではないかと想像します。

昭和二十二年に移転建築のお許しをいただいて四年後の昭和二十六年に二代真柱様お入り込みのもと、移転建築落成奉告祭を執行されました。そのとき、真柱様は神殿ふしんにおける経緯や親神様のお計らいを聞かれ、「わしも出さないかんなあ」と言われ、その月「これをもって百万人救いのノロシを上げよ」と御供（三千包十七袋五万千個）を下附され、一同大いに感激奮発したといえます。また、真柱様は神殿の設計や様子をとてもお気に召され、加えて教内の中でも戦後間もない神殿建築であったこともあり、神殿建築を検討している他系統の大教会などに対して「繁藤の神殿を参考に見よ」とおっしゃってくださいという話が残っています。



2代真柱様お入り込み



落成奉告祭の賑わい



切り出した献木を前にして（左から2番目が道久会長）

そして道久三代会長は、昭和三十年に坂本道照四代会長に会長の職を譲り、その年すぐに本部准員に登用いただきました。約三十年にわたり、会長として命燃やし尽くした真実をお受け取りいただいたのだと推察いたします。この道久三代会長をはじめとする繁藤につながる先人先生方のご苦労と真実の信仰を振り返ると、今を生きる我々もより一層力強く歩んでいかなければならないと、胸が熱くなりました。



おやさとのきしん 昭和30年9月

道久三代会長をはじめ、道照四代会長、藤恵五代会長、照仁六代会長が皆揃った写真（昭和30年ごろ）

立教百八十四年活動方針

創立百三十周年記念祭・七代会長就任奉告祭に向けて

《信仰の元一日に立ち返ろう》

活動方針

(三年間を通じ)

『人々のたすかりを願ひ、
陽気ぐらしの輪を広げよう』

実働項目

- おつとめ
 - ・朝夕に神様に手をあわせよう
- にをいがけ・おたすけ
 - ・悩める人に耳を傾け、寄り添う
- 陽気ぐらしの実践
 - ・親孝行、夫婦仲良く、陽気ぐらし

三年千日活動

- ・本部月次祭に参拝し、おちばの理を戴こう
- ・毎月二十六日朝、本部回廊拭きひのきしんの実施
- ・ブロック活動
 - にをいがけ、ひのきしん、バザー、物々交換、お楽しみ行事を通じて、友だちを誘い参加してもらおう